

2012年の豪雨災害では死者2名、全半壊200戸、床上浸水779戸に及び、2013年の台風では宇治川が決壊の危機に直面し6万2000人に避難指示をだす事態になりました。党市議団は災害のないまちづくり、被災者支援に全力をあげてきました。

被災者に寄り添い、力合わせて さまざまな被災者支援を制度化

党市議団は、発災後すぐに被災の現場に入り、被災者の声を市政に届けて対策を実現してきました。

泥上げ費用の助成の実施を迫り、また事後申請でも助成するようになりました。

住宅を失った方に公営住宅を提供させ、また、住宅が再建できていないにもかかわらず

立ち退きを迫られた被災者と一緒に運動し、5たび入居期間を延長させてきました。

当初、行政が拒否していた事業所の被害などについても、支援を制度化させることができました。

「民地だからできない」と拒否していた府・市を 運動と論戦で動かし災害対策工事

山間地の斜面崩壊や土石流で多くの被害がでました。当初、宇治市や京都府は「民地の川だから行政は手をつけない」「民地の山だから・・・」と対策を拒否していました。市議団は議会でも繰り返し追及するとともに、被災地

のみなさんと運動して「小規模治山事業」などの制度を適用させ、治山事業や砂防堰堤の設置など多くの災害復旧工事を認めさせてきました。

国会議員団と連携し 天ヶ瀬ダム予備放流へ、操作の基準見直し

2013年9月16日の台風の時、天ヶ瀬ダムの予備放流をしなかったため、ダムが満水になり越水寸前になり、緊急放流(1150トン/秒)しました。この緊急放流が大きな要因で、宇治川堤防が決壊の危機に直面したのでした。

議員団は、ただちに(9月26日)倉林参議院議員らと国土交通省に行き「宇治橋下流は1500トン/毎秒、見合いの改修が終わっているのに、なぜ、氾濫危険水位まで上がったのか。原因は何か。」などと要請。その後、天ヶ瀬

ダムの操作基準が見直され、予備放流がされるように改善されました。

また、宇治川堤防は砂でできた脆弱な堤防であり、漏水が発生しました。市議会でも繰り返し追及し、右岸の危険箇所(五ヶ庄)は応急補修。左岸の危険箇所は改修工事が実施中です。まだ多くの危険箇所があり、宇治川堤防の強化に取り組んでいきます。



災害の教訓いかし 弱者も避難できる仕組みに

2013年の台風時に6万2000人避難指示が出されたのに、避難した市民はわずか600人でした。避難の情報が市民にきちんと

知らされなかったからです。

「避難勧告」に先立ち避難準備情報を発するようにすべきで、自治会など

に情報を連絡するべきと、改善を求めています。

宇治市では、障害者・高齢者などの災害時の支援が必要な方の把握ができておらず、また、地元との連携が十分できていません。党市議団は問題点を明らかにし、要支援者の対策改善を求めています。

被災者支援・災害に強い宇治へ
全力をあげてきました
日本共産党宇治市会議員団

日本共産党
宇治市会議員団
だより 2015.2.13

電話 0774-22-3141 (市役所代表)
(内線2817 市議団控室)
FAX 0774-24-7884

■日本共産党宇治市会議員団の見解を紹介します